

「チーム西条」の絆で『勇気・前進』

市議会3月定例会が2月28日から3月21日までの23日間の会期で開かれ、平成24年度予算などの議案が上程、審議されました。

伊藤市長が議会初日に述べた、市政に臨む所信と新年度の具体的な施策の概要についてお知らせします。

未曾有の国難に直面して

現在の我が国は、戦後最大とも言える試練を迎えています。

未曾有の国難である東日本大震災からの復旧・復興は、被災地の経済再生や公共インフラ復旧等に、平成24年度予算で総額3兆2500億円の経費が見込まれており、かつ、原発事故対策等も加わって長期化の様相を呈しています。

また、欧州債務危機により世界経済の先行きが不透明な中、歴史的な超円高や長引くデフレへの対応、エネルギー戦略の見直しやTPP（環太平洋経済連携協定）への交渉参加に向けた関係国との協議、さらには、持続可能な

社会保障制度の構築に向けた社会保障と税の一体改革など、先送りできない多くの困難な課題に直面しています。

まさに、今後も我が国が国力を維持し、世界経済を主導できるかどうかを試されようとしており、私たちは、我が国の運命を左右するこれらの大きな課題に、相当の覚悟をもって取り組んでいかなければならないと考えております。

しかし、この難局にひるむのではなく、むしろそれを乗り越えようとする我が国のパワーを、世界へ発信する機会と捉え、今こそ国民が丸となって勇気を奮い起こし、我が国を覆う閉塞感を打ち破り、日本の再生と元氣・笑顔の回復に向けて、力強く前進していくべきであります。

つながり・絆の大切さ

こうした中、当市では「チーム西条」の名の下、市民が丸となり、「自己責任」と「自己決定」の原則を貫徹しながら、「自立」と「自活」の実現をめざし、これまでに、全国に先駆けて提唱した農業の総合6次産業化をはじめ、社会資本整備に関する国への政

策提言、「市民力」を活かした自主防災システムの確立等、独自のまちづくり施策を、常に勇気とチャレンジの姿勢をもって展開してきました。

長年にわたるこうした取り組みが、関係諸機関から高く評価され、「西条農業革新都市」の始動、東予港防波堤整備の事業化、ベトナム国フエ市での防災教育プログラム構築による国際貢献等の成果につながるとともに、国との人事交流の輪も一層広がり、そのつながりを活かした、いち早い国政情報の収集等が可能となってきたところであります。

東日本大震災という国難に直面し、改めて人と人とのつながり・絆の大切さが再認識される中、これらのまちづくりの成果は、さまざまにつながりにより生まれた「チーム西条」が、勇気をもって前に進めば、まち全体に元氣・笑顔を生み出し、当市のさらなる発展につながるということを立証したものであります。

まさに、「つながり」こと「つながり」ことの大切さとともに、それにより生まれた「チーム西条」の絆は、当市の大きな財産であるということ、強く実感しています。

合併10年という節目に向けて

一方、合併による本市誕生から7年が経過し、合併10年という節目の年が間近に迫っています。これまでさまざまな分野で着実にステップアップしてきた当市ですが、節目の時期には、それらも含めた合併による成果が国・県等から必ず問われ、総合的に評価されるものと考えます。

しかしながら、これまでの成果を明快にし、これからも皆さんとともに、我がまち「西条」の発展につながるよう邁進してまいりたいと思います。

また、市政の執行を担う者として、これらのことに対する覚悟と緊張感を新たにしながらも、今後も明快に堂々と、ぶれない姿勢で独自のまちづくりに取り組みとともに、勇気と日々前進あるのみとの気概を忘れず、「スピード」とさらなるチャレンジの姿勢で「ベスト」の施策を追求し、「西条の元氣アップ」をめざしてまいります。そして、当市発展の礎を築いてこられた先人の方々に対する敬愛と感謝の念を持って、持続可能な西条の発展に全力で取り組み、次の世代を担う子どもたちの輝く未来につなげてまいる所存であります。